

『邪馬台国をとらえなおす～福岡・佐賀の古代遺跡を訪ねる』

今年度の研修旅行は、生涯学習応援講座「リレー塾」のメインテーマ「邪馬台国をとらえなおす」に関連して、畿内とともに日本古代の歴史を解き明かす上で重要な舞台である福岡・佐賀の史跡を巡る旅を企画した。参加者は総勢17名、10月8日～10日の3日間の日程で春日市奴国の丘歴史資料館、伊都国歴史博物館、吉野ヶ里遺跡など魅力ある遺跡や博物館を訪問した。

第1日目（10/8）

非常に強い台風24号が8日には九州北部に接近する見込みであるという予報に、飛行機の遅延、欠航を心配したが、ほぼ定刻通りに羽田を離陸。福岡空港では、今回の研修に同行されご指導をしてくださる池崎 譲二さん（前福岡市埋蔵文化財センター長）の出迎えを受けた。さっそく、貸切バスで、最初の訪問先である「福岡市埋蔵文化財センター」に向かった。ここでは文化財主事の木下 博文さんの案内で、遺跡発掘で出土したさまざまな遺物の展示施設、木製品や金属器などの保存処理施設、10万箱もあるという膨大な収蔵施設などを見学。保存処理作業によって新発見された金象嵌の「庚寅銘太刀」についての紹介もあった。

次の予定に多少時間の余裕あり、池崎さんの案内で付近に位置する史跡の金隈遺跡と板付遺跡を訪れた。金隈遺跡は遺跡の一部が屋根をかけた展示館となっており、おびただしい数の甕棺墓に驚かされた。板付遺跡は日本最古の稲作集落の一つとして重要であり、V字形の環濠をめぐる集落と墓地を見学した。



埋文センター収蔵施設



金隈遺跡



板付遺跡



奴国の丘資料館展示室

あることが注目された。

本日最後となる福岡市博物館に着く。博物館では台風接近に備え、午後2時より臨時休館となったが、学芸員の池田 祐司さんのご配慮で、特別に3時過ぎに入館することができた。宝金印に直面することができ感激した。2階正面奥にじっくり金印だけに向き合展示室を設けており、池田さんから金印にまつわ

昼食後、春日市奴国の丘歴史資料館へ。後漢書や魏志倭人伝に登場する奴国の中心地部であったとされる須玖岡本遺跡からは、約30面の銅鏡、銅剣や銅矛など多数の副葬品を伴った王墓が発見されている。奴国をテーマとし展示室には、特に周辺遺跡から出土した銅剣、銅矛、小銅鐸などの鑄型が数多く展示されており、この丘陵一帯に強力な勢力を誇った生産集団がいたことを物語る資料であ



金印の展示

る多くの謎について説明を伺った。隣の展示室では「黒田節」に歌われた有名な槍「日本号」なども見学することができた。台風接近の影響もあり、時々小雨交じりの一日であったが、見学等に支障も無く、すべてが新しい発見で感動ある一日であった。

第2日目 (10/9)

朝のうち小雨のスタートであったが、バスで約1時間、糸島地方へ入る頃には天気も回復。伊都国歴史博物館ではボランティアガイドの清崎さんの案内で3階の常設展示室(伊都国の世界)



伊都国歴史博物館



平原遺跡1号王墓

を見学。ここには、国宝に指定された平原遺跡出土の銅鏡、ガラス製勾玉その他の出土品や王墓の実物大の復元模型、三雲南小路遺跡出土品などが展示されていた。平原遺跡出土の40面の鏡の中には直径46.6cmの内行花紋鏡が5面ありこれは日本最大の銅鏡。展示室を占めるおびただしい数の銅鏡は圧巻である。一つの墓からの出土量も日本一で、すべて国宝に指定され、伊都国の王にふさわしい内容であった。その多くが装飾品であったことから女王ではないかと考えられている。4階には遠く周囲を見渡せる展望スペースが設けられ、古代伊都国の風景を眺めることができた。続いて、博物館から約2kmの距離にある整備された平原歴史公園に向い、1号墓と呼ばれる伊都国の王墓を見学した。ここからは一路佐賀方面へ向かった。

台風が去り、空はすっかり青空。いよいよ研修の最大の目的地、吉野ヶ里歴史公園に到着。公園内のレストランで古代米の昼食をいただき、歴史専門員の松尾吉高さんの案内で、まず、木柵や土塁が施された環濠集落入口から「弥生くらし館」へ。ここでは特別企画展『よみがえる邪馬台国 倭人、海峡を渡る』を開催。魏志倭人伝に記された対馬国、一支国(壹岐)、末盧国さらに吉野ヶ里遺跡から出土した遺物が多数展示されており、歴史専門員の東中川忠美さんから大陸・朝鮮半島系の要素を持つ遺物の特色、文化の交流などについて丁寧な説明をいただいた。歴史専門員の折尾学さんからは、発掘調査の経緯や史跡整備の概要について、エピソードを交えながらの説明があり、続いて吉野ヶ里遺跡の主要部を中心に案内していただいた。

コースとしては大きな外壕の中に内壕のある「南内郭」と命名された区域から散策を開始。東西約70m、南北約150mの弧状の環濠に囲まれていて、物見櫓が四隅に配され、王や支配者層の住まいなど20棟の建物が復元されていた。まるで映画ロケ地のセットのようで、物見櫓に登ると、眼下に邪馬台国を彷彿とさせる壮大な風景が見渡せた。次に向かった「北内郭」は吉野ヶ里集落の中で最も重要な場所であったと考えられ、二重に設けられた環濠があり、特殊な形態をした出入口を入ると



南内郭入口 物見櫓

巨大な祭殿をはじめ9棟の建物が復元されていた。『北内郭』を出て、少し北に進むと吉野ヶ里を治めていた歴代の王の墓と考えられている東西約27m、南北約40mの長方形をした「北墳丘墓」がある。調査により14基の成人甕棺が発掘され、この内8基の甕棺からは銅剣やガラス玉などが副葬されていた。墳丘内部は遺構の展示室になっており、内部の湿度を保つ空調施設も整備され、発掘された状態の遺構面と甕棺を見学することができた。途中、多数埋葬された甕棺墓列を見学しながら尾根を下り、古代植物館に到着。園内バスに乗り公園センター入口まで戻

った。時間的に広大な環濠集落をくまなく巡ることはできなかったが、改めて、日本古代の歴史を解き明かす上で極めて重要な遺跡であることを認識した。



北内郭の主祭殿

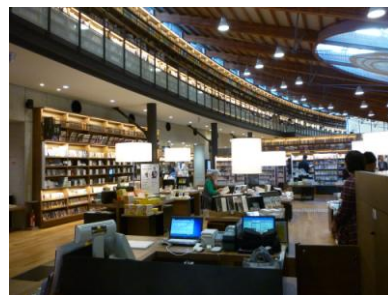


北墳丘墓展示館入口



甕棺墓列

本日最後の研修先として、新聞やインターネット等で紹介されている特色ある武雄市図書館へ向かった。図書館司書の椎名さんに館内の案内と説明をお願いした。特徴としては、大きく館内を見渡せる図書館と書店を融合させて、20万冊もの貸し出しや併設された書店での書籍購入もTカードを用いてセルフカウンターで行えることである。乳幼児のスペース、BGMの流れるスペース、PCの利用、カフェで読書を楽しむなど図書館の新たなモデルケースとして大変参考になった。あとは温泉の待つ嬉野温泉のホテルへ。日本三大美肌の湯にとっぷり浸かり、夕食のひとつときを楽しんだ。



武雄市図書館の内部

3日目 (10//10)

最終日、午前中は有田焼の代表的な窯元である今右衛門窯元と柿右衛門窯元を訪ねた。今右衛門窯元では、工房の制作行程を見学。支配人の相賀 恒久さんから、江戸期から色鍋島を伝統として受け継ぎながら、新しい技法の研鑽に励んでいることを熱く語っていただきました。また、柿右衛門窯では相談役の岩崎 純二さんかに清潔な工房を案内していただき、敷地内の古陶器参考館の作品、赤色の実にヒントを得たと伝えの残る柿木を見ることができた。昼食の後は、全国天満宮の総本山である大宰府天満宮を参拝。有名な名物「梅ヶ枝餅」をお土産に、名残をおしみつ帰路に着いた。そして、全員無事に羽田空港へ帰着、計画通りに二泊3日の旅を終えた。

皆様お疲れ様でした。



柿右衛門窯元にて

今回の研修旅行では、魏志倭人伝の邪馬台国に繋がる重要な遺跡や遺物を、直に見学する機会となりました。参加者の皆様には何か新しい発見があり、充実した研修旅行になったのではないかと思います。終りにあたり、地元研究者のご好意に心から感謝申し上げます。

(文責:研修旅行担当幹事 種田齊吾)